

SSS017-P19

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

山口県岩国断層帯南西延長海域の音波探査

Seismic profiling of offshore and southwestern extension area of the Iwakuni faults, Yamaguchi Prefecture

宮下 由香里^{1*}, 岡村 行信¹, 足立 幾久², 市原 季彦³, 新見 健³

Yukari Miyashita^{1*}, Yukinobu Okamura¹, Ikuhisa Adachi², Toshihiko Ichihara³, Ken Niimi³

¹産総研活断層・地震研究センター, ²大和探査技術(株), ³復建調査設計(株)

¹Active Fault and Earthquake RC, AIST, ²Daiwa Exploration & Consulting. co. Ltd., ³Fukken Co., LTD.

岩国断層帯は、広島県大竹市から山口県岩国市、下松市、周南市に分布する長さ約44kmの右横ずれ活断層である。同断層帯は複数条の断層から構成されるが、最新活動時期、活動間隔および推定される地震規模は、大竹断層での古地震調査結果と断層帯の長さに基づいている。しかし、同断層帯の北東は広島湾、南西は徳山湾に限られており、海域延長部での断層の分布形状や活動履歴は明らかではない。そこで、産総研では、文部科学省委託研究「沿岸海域における活断層調査」の一環として、岩国断層帯海域延長部の断層形状および活動履歴を明らかにすること、また、西方に分布する宇部沖断層群（周防灘断層群）との連続性を検討することを目的として、岩国断層帯南西延長海域の調査を実施した。調査内容は、極浅部音波探査210km、高分解能マルチチャンネル音波探査110kmおよび4地点での海底堆積物採取である。調査の結果、山口県光市沖大河内断層の延長海域において、最終氷期最大海退期の浸食面（約2万1千5百年前）以降の堆積物を変形させる断層を発見した。また、山口県防府市沖に分布する周防灘断層群主部の活動時期の上限値が明らかとなる可能性が見いだされた。

キーワード:岩国断層帯,沿岸海域,活断層,音波探査

Keywords: Iwakuni faults, offshore, active fault, seismic profiling